

## “With コロナ”・“After コロナ”時代に即した お客様に必要とされる自動販売機の取り組み クリーンネス キャッシュレス ウェルネス

株式会社伊藤園（社長：本庄大介 本社：東京都渋谷区）は、“With コロナ”・“After コロナ”における、当社の自動販売機（以下 自販機）の取り組みとして、**クリーンネス（衛生）・キャッシュレス（非接触）・ウェルネス（健康）**の3つの柱に注力して、お客様に必要とされる自販機を目指します。

国内の自販機台数は、2014年に247万台をピークに減少傾向となっております（※1）。減少の要因は、コンビニエンスストアの出店加速など、競合する販売ロケーションが増加したことなどが考えられます。一方で災害時において避難所に指定されている場所や学校などでは、飲料供給を目的とした社会インフラとなっていることも事実です。

そのような中、新型コロナウイルスが蔓延し、非対面の自販機に対する見方も変化しつつあります。当社の自販機においては、**クリーンネス（衛生）・キャッシュレス（非接触）・ウェルネス（健康）**に取り組み、安心して利用いただける社会に必要とされる自販機を積極的に展開します。



### 【クリーンネス】

自販機は多くの方々が利用され、その頻度に比例して汚れも付着します。特に女性は不衛生な自販機では購入を控える傾向にあり、清潔感は自販機に求められる重要な要素です。

当社では、購入ボタンなど消費者が触れる箇所のアルコールによる除菌や清掃の徹底に加え、抗菌効果のある茶殻を配合した茶殻抗菌シール（※2）を貼付することにより、安心して購入いただける衛生的な自販機づくりに取り組んでいます。更に、抗ウイルスシート（※3）も同様に貼付することにより、より安心してご利用いただけます。



## 【キャッシュレス】

現金に触れることに抵抗を感じる方が増え、また、消費税率変更を受けて実施されたキャッシュレス決済のポイント還元を背景に、キャッシュレス決済率は増加傾向にあります。

当社では、2009年に交通系電子マネーの搭載を展開し、直近では駅ナカのキャッシュレス決済はその他のロケーションに比べ、より多くの方々に利用されています。加えて、近年はタッチレスで決済できるQRコード決済の利用頻度も増加しています。そのような中、「PayPay」「楽天ペイ(アプリ決済)」「Alipay」などのQRコード決済が利用できるITアクセス機を積極的に導入し、キャッシュレス対応自販機を現在20,000台展開しています。また、このQRコード決済に2020年7月より「au PAY」が加わり、8社のQRコード決済が可能となり、消費者の更なる利便性を追求していきます。



## 【ウェルネス】

創業以来、消費者の生活に潤いと健康を届けるため、「自然」「健康」「安全」「良いデザイン」「おいしい」という5つのコンセプトで製品づくりにチャレンジし提供しています。

当社では、「健康」に特化した品揃えの自販機を「ウェルネス自販機®」(※4)と位置付け、オフィスロケーションなどで差別化できた設置のご提案をしています。人生100年時代に向けて、お客様の健康意識向上のきっかけとなり、設置先様からは「健康維持による活力サポートとなる」「組織の活性化につながる」など、お声をいただいています。

(※1) 伊藤園調べ

(※2) 大腸菌、MRSA、サルモネラ菌、白癬菌を用いて抗菌力評価試験を行ったところ、抗菌効果が認められました。

試験方法：茶殻配合シートを「JIS L 1902：2002 菌液吸収法」に従い、菌液(大腸菌、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)、サルモネラ菌、白癬菌)を接種し、37℃・18時間保存後、生菌数を測定

(※3) 「RIKEGUARD®FILM」使用  
(リケンテクノス株式会社)

エンベロップ有/無の両方の特定のウイルスに対して、フィルム表面のウイルス数が減少

試験方法：5cm角の試験片(抗ウイルス加工品と無加工品)に0.4mLのウイルス液を滴下し、25℃×24時間静置後、試験片上のウイルスを洗い出して回収した後、ウイルス感染価を測定します(ISO21702に準拠)。

\*すべてのウイルスに対して検証がなされたものではありません。

(※4) 様々な飲用シーンや目的に対応した、ペットボトル・缶・紙パックのパーソナルサイズ容器に対応している自販機

### ■当社の自販機台数 概要

2020年6月末 現在

クリーンネス自販機	(計画) 40,000台
キャッシュレス自販機	20,000台
ウェルネス自販機	5,000台